２０１１／０２／２７　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：異邦人の救い２
聖書箇所：ローマ人への手紙　１１章１６－１７節

　イスラエルはもう神から退けられてしまったと、そのように思う人たちに対して、神は決して彼らを退けてはおられない、彼らは倒れたのでもない、神はイスラエルに対してすばらしい計画をもっておられると、確信をもってそのように話すパウロの主張を私たちは見て来ました。この学びを通して私たちは、少なくとも私自身は、私たちの神の理解を超えた知恵とその偉大な計画に圧倒されています。神のもっておられる知恵は余りにも深くて、私たちには理解できません。神は私たちの理解を超えた知恵と計画をもっておられるお方です。そのことを私たちはみことばを通して教えられています。

☆神の偉大さ

Ａ．神の知恵　　１１節

　前回、私たちはローマ１１：１１から神の知恵について学んで来ました。イスラエルは神が備えられた救い主、その救いを拒みました。多くの人々はそれを見て、では、神はイスラエルを完全に見捨てられてしまったのか、もう彼らには救いの希望がなくなってしまったのかと、そのような疑問を抱くのですが、それに対してパウロははっきりと「否」と答えています。なぜなら、主は異邦人を救うことによってイスラエルにねたみをもたらし、それを通してイスラエルに今もなお働き続けておられると、そのことをパウロが知っていたからです。主はイスラエルを見捨てておられないと、それゆえに、パウロは熱心に異邦人に伝道しました。それを通して、自分の同胞であるイスラエルが救いに与ってほしいと、その願いをもって彼は働きを続けていたのです。神の為さることには神の深い知恵があります。

Ｂ．神の計画　　１２－１５節

　１２－１５節を通して、私たちは神の深い計画を学んで来ました。主はイスラエルの罪をも用いてそれを異邦人の祝福とされたとパウロは言います。それなら、今度はイスラエルが主に受け入れられるときには、どれ程大きな祝福が与えられるのか、そのことをパウロはここで語りました。すべての背後には神の完全なる計画があるのです。

Ｃ．神の恵み　：　イスラエルへの将来の祝福　　１６－２４節

　今朝、私たちは続いて三つ目を見て行きます。１６節から２４節の中で教えていること、それは「神の恵み」です。神はいかに恵みに富んでおられるお方か、イスラエルへすばらしい将来の祝福を約束しています。イスラエルにはすばらしい将来があります。そのことがこのみことばの中に記されています。

１．その根拠　　１６節

　まず、私たちは１６節を見たいと思います。**「初物が聖ければ、粉の全部が聖いのです。根が聖ければ、枝も聖いのです。」**、パウロはこのイスラエルのつまずきが一時的であり、後に、イスラエルが救われるというすばらしい祝福があることをここで教えるのです。「神は彼らにすばらしい計画を持っている。彼らは将来すばらしい祝福で満たされる。」と、そのことをこの１６節の中で二つの例をもって説明します。一つは「主へのささげ物」であり、もう一つは「木」、植物の木です。この二つの例によって彼らに与えられているすばらしい将来の祝福をパウロは教えようとするのです。

１）主へのささげ物　：　初物と粉全体

　「初物が聖ければ、粉の全体が聖いのです。」と言います。**「初物」**は「初穂」と訳せます。最初に収穫されたものです。もちろん、これは穀物だけでなく人間を指すこともあります。この**「初物」**の例は、実は、パウロは民数記１５章から引用しています。その箇所には今私たちが知ろうとしているメッセージがあります。そのメッセージを見て行く前に背景を説明します。神に逆らったイスラエルは、神からあることを告げられます。モーセは１２人の斥候を約束の地に送りましたが、その中の１０人は「この地は征服できません。巨人がいる。我々には絶対に勝ち目がない。」と言います。二人だけは違いました。カレブとヨシュアだけは「いいえ、神が約束されたのだから出て行こう。」と言いました。この不信仰は神の怒りを買いました。神がイスラエルの民に約束したことは、この神に逆らった者たちはみなこの荒野で死に絶えるというものでした。ヨシュアとカレブを除いて、そして、２０才以下の子どもたちを除いたイスラエルの民は、約束の地に入ることはできないというものでした。

　この神に対する反抗が為される前から、神はモーセを通して、これから約束の地に入って行こうとする新しいイスラエルの民に対してこのようなことを言ったのです。それが民数記１５章の中に出て来るのです。１５：１７－２１を見てください。**「主はまたモーセに告げて仰せられた。:18 「イスラエル人に告げて言え。わたしがあなたがたを導いて行く地にあなたがたがはいり、:19 その地のパンを食べるとき、あなたが**

たは主に奉納物を供えなければならない。:20 初物の麦粉で作った輪型のパンを奉納物として供え、打ち場からの奉納物として供えなければならない。:21 初物の麦粉のうちから、あなたがたは代々にわたり、主に奉納物を供えなければならない。」、神はモーセを通して、４０年後に約束の地に入る新しい民にこのようなことを告げたのです。実際に、４０年経て、イスラエルはヨルダン川を渡って約束の地に入って行きます。最初に彼らがギルガルという町に着いたときに、彼らはそのエリコの草原で過越のいけにえをささげ、その翌日にその地の産物、種を入れないパンと炒り麦を食べたとあります。これはヨシュア記５章に記されていることです。

その時に、彼らがしたこと、自分たちが食べる前にしたことは、今私たちが民数記で見ている神がモーセを通して民に教えたことなのです。つまり、自分たちが食べる前に、彼らは初穂の麦でパンを作り、それを神にささげるということを実践したのです。それが今私たちが見ているみことばの背景です。パウロが言っていることはこの後でもう少し見て行きますが、１１：１６のみことばに戻って、彼らは麦の初穂を集めてパンを焼き、それを主のところに持って行くのです。「持って行くパンもそのように聖められるけれど、残っている粉も同じように聖い。」とそのように言います。初穂のすべてを使ってパンを作るのではなかったからです。その一部を神におささげするが、残りの粉も同様に聖いということを言っているのです。神へのささげ物をするときに二つのことを注意しなければなりませんでした。

◎神へのささげ物に関する注意事項

ａ）最上の物をささげること：最上の物でパンを作ること

出エジプト記２３：１９に**「あなたの土地の初穂の最上のものを、あなたの神、主の家に持って来なければならない。…」**とあるように、残ったもの、汚れたものではなく、収穫された初穂の麦の中で一番良いものを使って神にささげるためにパンを焼きなさいということです。もちろん、これはパンだけでなくて、私たちは神の前に最上のものをもって来ます。あのカインとアベルのことを思い出しませんか？神が何を喜ばれるのか？私たちが最高のものを持っていくときに神は喜んでくださるのです。

ｂ）心からささげること

申命記２６章の中に、どのような心構えをもって初穂をささげるべきかについて教えています。そこには「神の恵みを顧み、謙遜な思い、深い感謝を込めて神に心からささげるように」とあります。大切な教えです。神にささげ物をなすときに必要なことは、神の恵みをしっかり思い出して、そして、神の前に謙虚になって、深い感謝を込めて心から神にささげることです。そのような態度をもってささげるそのささげ物を神は喜んでくださるのです。最上の物を正しい心を持って喜んでささげることです。

（**参照**：レビ記２３：１０**「イスラエル人に告げて言え。わたしがあなたがたに与えようとしている地に、あなたがたがはいり、収穫を刈り入れるときは、収穫の初穂の束を祭司のところに持って来る。」**、
２３：１３－１４**「その穀物のささげ物は、油を混ぜた小麦粉十分の二エパであり、主への火によるささげ物、なだめのかおりである。その注ぎのささげ物はぶどう酒で、一ヒンの四分の一である。:14 あなたがたは神へのささげ物を持って来るその日まで、パンも、炒り麦も、新穀も食べてはならない。これはあなたがたがどこに住んでいても、代々守るべき永遠のおきてである。」**）

実は、この行為が神に喜ばれるということ、こうして、私たちが最良のもの最上のものをもって神におささげするということ、しかも、私たちがそれを食する前に神におささげするということは、私が持っているすべての物は神のものであり、神が私に与えてくださったものだということを意味しているのです。ですから、それをもって感謝するということは、「私がいただいているものはすべてあなたがくださったものですから、私はあなたに感謝します。あなたが恵みをもって私に与えてくださった物は、私はあなたに感謝してそれをあなたにお返しします。」と、まさに、ここで教えられているささげ物をする態度です。神が喜んでくださる態度です。

これは新約聖書の中で、私たちがささげている献金についても同じことが教えられています。神にささげるときは私たちの心が問題です。私たちは本当に最高の物を神にささげているか、そのことを考えなければいけません。最上のものを喜んで主にささげる、主が与えてくださったものを主にお返しすることで、私たちは私たちの感謝を表わすのです。みことばに**「神は喜んで与える人を愛してくださいます。」**とあります（Ⅱコリント９：７ｂ）。

ですから、旧約の時代でも新約の時代でも、ユダヤ人であろうと異邦人であろうと、私たちが神の前に最良のものを持って来て心から喜んで神にささげるときに、神は喜んで受けてくださる。そして、その行為は神がくださったものです。ですから、私たちがいつも覚えていなければいけないことは、私たちに与えられているものはすべて神から与えられているということです。「これは私のものだ」とするなら、私たちには感謝がなくなります。でも、神がくださったということを覚えるときに「神さま、ありがとうございます。あなたはすべての必要を満たしてくださっています。感謝します。」と、そのようにして私たちは喜んで神にささげ物をするのです。

２）木　：　「根と枝」ー　根が聖ければ枝も聖い

植物の「木」のことをここで上げます。その植物の根が聖ければ、そこから芽生えるものも聖いと言います。「主へのささげ物」と「木」、この二つはまったく違うものではありません。この二つの例をもってパウロが教えたかったことは同じことです。初物の麦粉で作ったパンが神によって受け入れられるということは、残りのパン生地もすべて神に受け入れられているということです。「木」に関しては、木の基である根が聖いければ、その養分を吸って成長する枝も聖いと、そのことを言うのです。

そのことが分かっても、私たちはまだパウロがここで教えたかった内容が理解できません。パウロはここで「初物」、「根」と言っています。つまり、その祝福の根本です。これはイスラエル民族の族長たち、つまり、アブラハム、イサク、ヤコブのことをいうのです。なぜなら、パウロはここでイスラエルのことを話しているからです。イスラエルの祝福のことです。しかも、このローマ書の１１章２８節を見ると**「彼らは、福音によれば、あなたがたのゆえに、神に敵対している者ですが、選びによれば、先祖たちのゆえに、愛されている者なのです。」**とあります。イスラエル民族の**「先祖たち」**とは先に話したように族長たちのことです。

思い出してください。アブラハムが神を選んだのではなく神がアブラハムを選ばれました。そして、アブラハムの息子の中でイシュマエルではなく、神はイサクを選ばれました。そして、イサクの子どもたちの中からエサウではなくて、神はヤコブを選ばれたのです。神はこのようにして彼らを選んだのです。実は、ここに「聖い」ということばが出て来ます。「聖い」と聞いて私たちが思うことは、道徳的に聖い、罪が赦されて聖いということですが、ここで使われている「聖い」はそのような意味ではありません。これは「主なる神ご自身の目的のために聖別された」ということです。神によって選び分けられたということです。ですから、「初物」、「根」が神によって選ばれた、つまり、アブラハムが神によって選ばれたということ、それゆえに、この「粉」、「枝」とはいったいだれのことでしょう？それはイスラエルです。なぜなら、アブラハムはイスラエルの族長だからです。パウロはそのことを言わんとしているのです。ですから、パウロはこうして１６節で、神がイスラエルの族長であるアブラハムを選ばれ、アブラハムとの間に契約を結ばれたゆえに、そのアブラハムの子孫であるイスラエルに対してその約束を果たされると言うのです。

◎アブラハムとの契約：創世記１５：５－１０、１７－１８

神は確かに、このアブラハムとの間に契約を結ばれました。皆さんがよくご存じの通り、創世記１２章に記されていることですが、神は確かにアブラハムとの間に契約を結ばれました。「アブラハムの契約」と言われています。神はこのような約束を与えました。その当時はまだ「アブラム」と呼ばれていましたが、創世記１２：２**「そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。」**、「アブラムは大いなる国民となる」という約束が与えられました。１３章１６節を見ると**「わたしは、あなたの子孫を地のちりのようにならせる。もし人が地のちりを数えることができれば、あなたの子孫をも数えることができよう。」**とあります。**「地のちりのように」**、非常に多い数のことです。アブラハムから子孫が増え広がって行くという約束が与えられています。１５節に移って、１節にはこのように記されています。**「これらの出来事の後、主のことばが幻のうちにアブラムに臨み、こう仰せられた。「アブラムよ。恐れるな。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きい。」**と、このようなメッセージを神から聞かされたアブラムは次のような質問をしています。２節**「そこでアブラムは申し上げた。「神、主よ。私に何をお与えになるのですか。私にはまだ子がありません。私の家の相続人は、あのダマスコのエリエゼルになるのでしょうか。」:3 さらに、アブラムは、「ご覧ください。あなたが子孫を私に下さらないので、私の家の奴隷が、私の跡取りになるでしょう。」と申し上げた。」**、つまり、アブラムには子どもがなかったのです。でも、神の約束はアブラムから子孫が無数に広がっていくということです。だから、当然アブラムは疑問に思ったのです。この約束が成就するには子どもがいなければいけない、でも、自分には子どもがいない、それなら、**「私の家の奴隷」**を通して神はこの約束を果たされるのではないか？と、そのようなやり取りがアブラムと神の間になされるのです。

その時に、主はこのようなことをアブラムに告げられます。続いて４節から**「すると、主のことばが彼に臨み、こう仰せられた。「その者があなたの跡を継いではならない。ただ、あなた自身から生まれ出て来る者が、あなたの跡を継がなければならない。」:5 そして、彼を外に連れ出して仰せられた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。」さらに仰せられた。「あなたの子孫はこのようになる。」:6 彼は主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。:7 また彼に仰せられた。「わたしは、この地をあなたの所有としてあなたに与えるために、カルデヤ人のウルからあなたを連れ出した主である。」**、この土地をあなたに与えるために、ウルからあなたを連れて来たのだと神はおっしゃったのです。そこでアブラムはこう言っています。８節**「彼は申し上げた。「神、主よ。それが私の所有であることを、どのようにして知ることができましょうか。」**、神はこの土地を私に与えるという約束をくださった、でも、どのようにしてそれを知る

ことができましょうか？と。そのときに神は９－１０節に記されていることを為さるのです。**「:9 すると彼に仰せられた。『わたしのところに、三歳の雌牛と、三歳の雌やぎと、三歳の雄羊と、山鳩とそのひなを持って来なさい。』:10 彼はそれら全部を持って来て、それらを真二つに切り裂き、その半分を互いに向かい合わせにした。しかし、鳥は切り裂かなかった。」**、神は不思議なことを命じました。いけにえの動物を**「真二つに切り裂き、その半分を互いに向かい合わせにした。」**とあります。その後、再びアブラムに主の仰せがあります。１３－１８節**「そこで、アブラムに仰せがあった。『あなたはこの事をよく知っていなさい。あなたの子孫は、自分たちのものでない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。』」**、アブラムと神が話しているのです。皆さんお分かりでしょう。これはモーセの時代のことです。神はすでにそのことを預言されているのです。**「：14 しかし、彼らの仕えるその国民を、わたしがさばき、その後、彼らは多くの財産を持って、そこから出て来るようになる。:15 あなた自身は、平安のうちに、あなたの先祖のもとに行き、長寿を全うして葬られよう。:16 そして、四代目の者たちが、ここに戻って来る。それはエモリ人の咎が、そのときまでに満ちることはないからである。」:17 さて、日は沈み、暗やみになったとき、そのとき、煙の立つかまどと、燃えているたいまつが、あの切り裂かれたものの間を通り過ぎた。:18 その日、主はアブラムと契約を結んで仰せられた。「わたしはあなたの子孫に、この地を与える。エジプトの川から、あの大川、ユーフラテス川まで。」**と、神はここでアブラムとの間に契約を結んだのです。

◎神は必ず約束を守られるお方

今、ここで見た「いけにえの動物を真二つに切り裂いて左右に置く」ということは、当時の人々には何も珍しくなかったのです。このような形式の儀式はその当時もなされていたのです。問題は、この儀式がもつ意味です。それはエレミヤ書の中に記されています。３４：１８**「また、わたしの前で結んだ契約のことばを守らず、わたしの契約を破った者たちを、二つに断ち切られた子牛の間を通った者のようにする。」**、つまり、契約を結ぶときに、そのように二つに切り裂いた動物の間を契約を結ぶ者たちが通るのです。そして、もし、私がこの契約を破るなら、私はこの動物と同じように切り裂かれても構わないという意味です。そのような約束を結んだのです。私たちがこの１５：１７を見て驚くことは、神はアブラムと契約を結ぶのですが、切り裂かれたいけにえの間を通ったのは神だけだということです。

《注視》

・切り裂かれた動物の間を通ったのは「煙の立つかまどと、燃えているたいまつ」でした。

これは神の顕現です。神がはっきりと形をもってこのようにご自身を現わされたのです。ですから、ここで言っていることは、神ご自身がそのいけにえの間を通られたということです。

・神だけがその間を通られた。

先ほども見たように、契約を結ぶときはお互いがいけにえの間を通って誓約します。もし、それを破ればこのいけにえのようになっても何の文句も言えないのです。でも、この神とアブラムの契約に関しては、神ご自身だけが為さるのです。それは神が一方的にこの約束を与えたのです。神はこの当時の人々が行なっていた契約を締結するその方法を用いて、アブラムに神の約束を与えたのです。神の誓いなのです。「わたしが約束したことはわたしの名にかけて誓う。必ず、それは実現する。」と。

・夜にこのことが行なわれた。

この出来事は夜に行なわれた１７節で教えます。恐らく、神のみわざがより鮮明にされるためだったのでしょう。

ですから、神はアブラムに約束のことばを与えました。でも、それだけではなくて、このような行ないをもってご自身の約束の確実さを明らかにしているのです。ことばだけでなく行為をもって「アブラムよ、わたしの言ったことは必ずそのようになる。」と。私たち人間のように約束を反故にするようなことは神にはあり得ないのです。

◎あなたは神の約束を信じていますか？：信仰の成長の秘訣

このアブラムと神との契約のこの出来事を読んでいて、私自身は大きな励ましをもらいました。いかがですか、皆さん？神はこのようなことをする必要はないのです。この方は神です。この方は言われたことを必ず守るのです。そうでなければ神ではありません。「契約の神」、ヤーウェということばは旧約聖書の中で６８２６回使われています。神は私たちと同じような存在ではありません。私たちにはいつも失敗がつきものです。「ごめん、できなかった、忘れていた。」と。神にはそのようなことはないのです。神は約束を必ず守られるお方です。

それなら、クリスチャンの皆さん、あなたは神の約束に立って生きることです。神の希望に立って生きて行くことです。讃美歌の中にあるように「立て、立て、永久に変わらぬみことばに。立て、立て、神のみことばに立て。」と。前回も説明したように、この詩を書いた人のことばを直訳するなら、「立て、立て、私の救い主なる神の約束に立て。立て、立て、私は神の約束に立っている。」です。それが私た

ち信仰者の生き方です。人々はいろいろなことを言いますが、問題は、神がどうおっしゃったかです。あなたの信仰も私の信仰もこの約束の上に立っているのです。神が言われたことは必ずそうなると私たちは信じています。

信仰者の皆さん、あなたはこのことを信じていますか？神はこのような約束を与えてくれたと言います。それは、主はあなたに恵みを与えて、そして、あなたを通して主の栄光を現わしてくれていると。ご存じでしょう？信仰者の皆さん、あなたを通して神はご自身の栄光を現わされるのです。そのように神は約束してくださったのです。問題は、そのことをあなたが信じているかどうかです。多くの人たちは「それは特別な人に与えられた約束であって、私のような普通の信仰者には私を通して神の栄光が現わされるなど、そんなことは考えられないしあり得ない。私のように信仰の弱い者にはそのようなことはあり得ない。」と言いますが、もし、そう言われる方がいるとするなら—いないと思いますが—、あなたの信仰が成長しないのはそこに問題があるのです。つまり、神が言われたことを信じないのです。神が言われることは「あなたを通してわたし自身の栄光を現わす。」です。こんな弱い罪深い私たちを通して、こんな愚かな私たちを通して、神はご自身の栄光を現わしてくださるのです。そのことにアーメン！ですか？皆さんはそのように信じていますか？神が約束されたのです。主はあなたに恵みを与えて主のご用にあなたを用いてくださると言われます。信じていますか？多くの人は「できません」と言います。それは何を意味しますか？神の約束を信じていないのです。例外を設けているのです。

神はあなたに恵みを与えて、日々あなたを主イエスに似た者に変えてくださると言われます。あなたはそのことを信じて生きていますか？神は私を毎日、神の栄光によって私をキリストに似た者に変えていってくれる、そのようなみわざが神によって為されるという、その約束を信じて、そのことを喜びながら期待しながら生きていますか？主はあなたに恵みを与えて、日々あなたが主にとって役に立つ者へと変えていってくれる、あなたは神にとって役に立つ者へと変えられて行くのです。それを信じて生きていますか？私たちは過去を振り返って、そして、過去を見て後悔して嘆くのではないのです。過去を振り返って、失敗があればそれを悔い改めて、私たちは今日を見て、そして、歩んで行くのです。

神の約束はあなた神にとって役に立つ者となるということです。そのことを感謝して、そのことを喜んで、今日、主に従っていますか？神はあなたに恵みを与えて、どんな時にもあなたが喜びを持って、平安を持って、感謝を持って過ごすことが出来るようにしてくださるのです。そのように約束をくださった神に感謝しながら生きていますか？主はあなたがどんな時にも希望を持って過ごすことが出来るようにしてくださるのです。それを信じて生きていますか？パウロは言いました。「患難、苦しみ、迫害、飢え、危険の中にあっても、私たちは**「圧倒的な勝利者」**として過ごすことができる。」と、ローマ書８章で私たちはもうすでに学んで来ました。パウロは「どんな問題があっても、どんな困難があっても、どんな悲しみがあっても、どんなに辛いことがあっても、どんなに苦しくても、神は私を勝利者として今日生きることができるように導いていってくれる。」と言っています。そのような約束に立って生きていますか？それとも、聖書の約束は聖書の約束、私の生活は私の生活として、敢えてそれを分離して生きていませんか？

だから、信仰が成長しないのです。だから、神のみわざがあなたの内に起こって来ないのです。私たちの問題は、神の言われたことを信じないことです。確かに、こんな罪深い者が神に似た者に変えられる、神に喜んでいただける者に変えられて行くなど私たちの頭では「無理だ」と思います。でも、神の約束は、アブラムに対して神が為さったこと、そのいけにえの間を通って行かれたことは何を意味したのか？「わたしの約束は必ず成る。もし、わたしがそのことを破るなら、このいけにえと同じことがわたしの身に起こっても構わない。」です。私たちがその神の約束を信じ切ることができるかどうかです。神が言われたことを私たちが心から信じて「神さま、アーメン！そのとおりです。私はあなたを信じて生きます！」と、そのような信仰の歩みをあなたが為しているかどうかです。

「しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。」（ローマ８：３７）。私たちは敗北者ではないのです。キリストによって勝利を得た者として生きているのです。あなたは勝利者である神の側に立っているのです。神の約束はあなたに与えられました。そして、神はその約束をあなたを通して成就しようとするのです。問題はあなたがそれを信じるかどうかです。アブラハムは信じたのです。神は喜ばれ、神は大いに彼を祝して用いられました。いかがですか、皆さん？　神の約束をあなたは確信を持って信じていますか？その約束にしっかりと立って、神が言われたからその通りになると信じて歩んでいらっしゃいますか？確かに、いろいろな困難があったり、苦しみがあったり、問題があったり、悲しみがあったり、将来を見たときに不安になってしまいます。でも、「私は神の御手の内に抱かれている。神が私をこの地上にあっても導いてくださる。そして、私を備えられたすばらしい天国へと導いてくださる。」と、そのような希望を持って私たち信仰者は生きて行けるのです。そのカギは「神の言われたことを信じるだけ」です。願わくは、

ここにおられる信仰者のお一人ひとりが「私は信じる。神がおっしゃったことを信じる。その信仰をもって歩む。」と、そのような信仰者へと日々変えられて行くことを願います。そのような歩みをする人を神は喜んでくださり、そのような歩みをする人を神は用いてくださるのです。

今日のテキスト、ローマ１１：１６に戻ってください。先程も話したように、「初物」と「根」とは「イスラエルの族長」を指します。「粉」と「枝」は「イスラエル民族」のことです。ここでパウロは「イスラエル」が神によって選ばれた民族であることを教えています。アブラハムに約束を与えた神は、その子孫であるイスラエルに対してその約束を果たされる。そのような神であることを明らかにしたのです。神はアブラハムに約束されたことを果たされます。神の約束は必ずその通りになります。

「主なる神が選ばれた人々」、それがイスラエルです。だから、今、彼らが福音に対して心がかたくなであっても、また、その祝福を拒んでいるとしても、それが永遠に続くものではないのです。必ず、彼らが神によって変えられるときがやって来ると、パウロはそのことを確信していたのです。イスラエルの族長に与えられた約束を神は必ず果たされるのです。

２．異邦人への祝福　：　接ぎ木の比喩でもって説明　　１７－２４節

１７節から２４節でパウロは「異邦人への祝福」について教えます。それを「接ぎ木」の比喩をもって説明するのです。ここには「栽培されたオリーブの木」と「野生種のオリーブの木」のことが記されています。

・**「栽培されたオリーブの木」**＝信仰あるアブラハムの子孫のことです。

・**「野生種のオリーブの木」**＝異邦人の信仰者のことです。

１７節に**「もしも、枝の中のあるものが折られて、野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じってつがれ、そしてオリーブの根の豊かな養分をともに受けているのだとしたら、」**とあります。枝が幹につながれているのです。しかし、その枝が**「折られる」**とあります。

・**「折られた枝」＝不信仰のイスラエル人のことです。**

１５節に**「捨てられる」**ということばがありましたが、それと同じ神のさばきのことです。不信仰によって彼らはその幹から切り離されてしまうのです。確かに、エレミヤ書１１章にはイスラエルの不信仰に対する神の警告が記されています。エレミヤ１１：１６－１７**「主はかつてあなたの名を、『良い実をみのらせる美しい緑のオリーブの木。』と呼ばれたが、大きな騒ぎの声が起こると、主はこれに火をつけ、その枝を焼かれる。:17 あなたを植えた万軍の主が、あなたにわざわいを言い渡す。これはイスラエルの家とユダの家が、悪を行ない、バアルにいけにえをささげて、わたしの怒りを引き起こしたからである。」**、つまり、枝である彼らが切り離されて焼かれてしまうその原因は、イスラエルの神に対する罪であると言っています。不信仰であり、そして、偶像崇拝が原因であると。

ですから、この１７節でパウロは、イスラエルの不信仰な者が折られて、そして、野生種である異邦人が、信仰によってその枝がその幹に接ぎ木される、祝福の中に招かれたということを言うのです。そして、このことはこの後パウロが私たちに詳しく教えてくれます。

《注視》

ここで一つ、皆さんに見ていただきたいことがあります。私たちはこれまでも、そして、今日もパウロが繰り返し教えていることを見て来ました。神はもうイスラエルを捨てられたのか？もう彼らに救いの手を差し伸べないのか？パウロは「いいえ、神は必ず彼らに救いの手を差し伸べる。」とそのことを繰り返しています。１７節でもそのことを教えています。**「もしも、枝の中のあるものが折られて、」**とあります。枝のすべてが折られるとは言っていません。つまり、イスラエル民族のすべてが神の前から除かれてしまうとは教えていないのです。ある者は確かに不信仰によって除かれますが、ある者は残るのです。神はイスラエルにすばらしい計画を持っておられるのです。彼らには主の約束があるのです。

・すべては神の一方的な恵みだということ

こうして、私たちは神の為しておられることを見れば見るほど、その知恵に圧倒されて行きます。信仰者の皆さん、最後にこれだけ覚えてください。神はこのようにしてみわざを為しておられる。イスラエルに対してすばらしい計画を持ち、その計画を必ず成就されます。神がアブラハムと結んだ契約は必ず成就するのです。そして、その祝福の中に私たち異邦人が招かれたのです。あなたがこうして救いを楽しむのも救いを喜んでいるも神の一方的な恵みです。イスラエルは不信仰によってその祝福から切り離されました。この後、パウロはそのことを教えますが、彼らも同じです。神の恵みによって彼らも今一度、この祝福の中に招かれるのです。そして、異邦人である私たちも同じです。すべては神の恵みなのです。なぜ、私のような者を救ってくださりこのような祝福の中に入れてくださったのか？恵みです。神があなたを選んでくださった。この六十数億の人間の中から…、恵みです。神の一方的な恵みです。あなたをこの救いへと招いてくださった。だから、私たちはこの神を心から誉め称え、この方に感謝を

ささげるのです。救いはすべて神の一方的な恵みです。そのことを忘れてはいけないのです。そのことをしっかり覚えて、それを感謝して歩みなさいと言うのです。
　そして、パウロはその後、その恵みを覚える者として、どのような点に注意しなければいけないのか、そのことをも教えてくれます。それは次回、ごいっしょに学びたいと思います。

《考えましょう》

１．神への感謝と献身を表わす「ささげ物」をささげるときの注意事項は何だったでしょう？
２．「心から喜んでささげる信仰者」となるためにはどうすれば良いと思いますか？
３．あなたの主が「契約を守るお方」であるという事実を知って、あなたはどのようなことを思いましたか？また、それはどうしてですか？
４．主が与えてくださった「救いの恵み」をいつも覚えて感射するためにはどうすれば良いと思いますか？
５．主が与えてくださった恵みで、あなたが一番感謝していることは何ですか？また、それはどうしてですか？